



お母さんのおにぎり

高崎市立佐野小学校 5年

今村 幸優

わたしは、ごはんが好きです。ごはんは色々な料理が作れますが、わたしが一番好きなのは、お母さんが作ってくれるおにぎりです。

今年の夏休みは、お母さんが毎日仕事だったので、わたしは妹と二人でるすばんすることが多かったです。

お母さんは、早起きして毎日お父さんのお弁当を作っています。夏休みの間は、わたしと妹の分もお弁当を作ってくれました。お弁当といっても、わたしたちのはおにぎりだけです。

「なんで、お父さんのはおいしそうなお弁当なのに、わたしたちのはいつもおにぎりなんだろう。毎日同じだとあきてしまうよ。」

と、思っていました。

夏休みのおにぎりのお弁当が始まって一日目、二日目、三日目、四日目、五日目……。

「あれっ？毎日おにぎりを食べているのに、あきないなあ。おにぎりおいしい！」

いつの間にか、毎日のお昼ごはんが楽しみになっていました。妹と二人のるすばんは、さみしくて心細い時もありましたが、このおにぎりを食べると、お母さんのことを思い出して元気になれました。おにぎりには、不思議なパワーがあると感じました。なので、わたしも自分で作って食べてみました。

「おいしい。でも…お母さんが作ってくれるおにぎりの方がずっとおいしいなあ。何がちがうのかなあ。」

お母さんが毎日作ってくれているすがたを思いうかべながら、考えて考えて考えてみたら、お母さんのおにぎりにあってわたしのおにぎりにはないものが一つだけありました。それは、愛情でした。

お母さんは、朝早く起きてたきたての熱いごはんをやけどしそうになりながらも、わたしたちのためにがんばってにぎってくれました。それに、わたしたちがあきないように、毎日ちがったおにぎりを作ってくれていたのです。仕事や家事で大変なのに、わたしたちのことを思って愛情をたっぷりこめてくれていたのです。

わたしは、そんなお母さんのために感謝の気持ちをこめて、妹といっしょにおにぎりを作りました。

お母さんが喜んでくれるすがたを思いうかべながら、心をこめてにぎりました。すると、たきたての熱いごはんもがんばってにぎれました。具のない真っ白なおにぎりができました。お母さんに食べてもらいました。お母さんはゆっくり味わいながら、

「今まで食べた中で一番おいしいよ。」

と、言ってくれました。わたしと妹は、とてもうれしくなりました。

この夏、おにぎりはわたしにとって、特別なもので、大好きなものになりました。